

ページ	誤	正
P.5 左7行目	トランジスタのちに IC 化によって	トランジスタに変わった後に, IC 化によって
P.17 右7行目	しかし, $\varepsilon_I \geq \varepsilon_{III}$ の場合	しかし, $\varepsilon_I \leq \varepsilon_{III}$ の場合
P.26 左12行目	降伏条件	条件
P.26 左21行目	破断	降伏
P.26 左28, 35, 36行目,	破壊	降伏
P.26 式(2.64)	$(\sigma_1 - \sigma_2)^2 + (\sigma_2 - \sigma_3)^2 + (\sigma_3 - \sigma_{12})^2$ $= 2\sigma_Y^2$	$(\sigma_1 - \sigma_2)^2 + (\sigma_2 - \sigma_3)^2 + (\sigma_3 - \sigma_1)^2$ $= 2\sigma_Y^2$
P.52 式(4.32)	$e = \frac{1}{4} K(1+\nu) \varepsilon_I E \quad (4.32)$	$e = \frac{1}{2} K(1+\nu) \varepsilon_I E \quad (4.32)$
P.77 左下6行目	$= \frac{1}{2} \tan^{-1} \left\{ \frac{2 \times 358 - (465 + (-101))}{321 - 12} \right\}$	$= \frac{1}{2} \tan^{-1} \left\{ \frac{2 \times 358 - (465 + (-101))}{465 - (-101)} \right\}$
P.82 表 7.3 下4行目	図 6.6 に示す。	図 7.6 に示す。
P.84 左下10行目	感度補償は図 7.2 に示すように	感度補償は図 8.2 に示すように
P.105 右下8行目	非破壊試験技術者の役割(9.4.2 項)	非破壊試験技術者の役割(10.2.2 項)